

令和元年6月18日現在

機関番号：33919

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H04105

研究課題名(和文) シュリンクシティにおける空間変化と計画的対応策の日米欧比較研究と提案

研究課題名(英文) The Comparative Study on Spatial Transformation and Planning Policies of Shrinking Cities of Japan, USA and Europe and the Suggestion

研究代表者

海道 清信 (KAIDO, KIYONOBU)

名城大学・都市情報学部・教授

研究者番号：80278332

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：先進国では人口減少とそれに伴う都市機能や空間縮小が顕著な都市＝シュリンクシティが1990年代以降、見られるようになってきた。シュリンクシティは、国や地域また時代によって、社会経済的、文化的、さらに都市形態やその変化、政策的対応も多様である。本調査研究は、アメリカ、ドイツ、日本の研究者と交流しながら、シュリンクシティの特性と課題、政策的計画的対応を国際比較によって明らかにしたものである。国内外の典型都市の調査、統計解析、文献解読、研究会の開催などを行い、海外研究者との共同論文などの研究成果を発表した。また、国際研究交流セミナーを2018年に日米、2019年に日独を開催する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は米独の研究者と共同で国際比較調査を行い、シュリンクシティという課題の共通性と独自性への理解が深まった。また、国際的にはあまり取り上げられなかった日本のシュリンクシティの状況を海外に知らせ、今後の共同研究の発展への端緒ともなったと考える。成長拡大に対応してきた日本の都市政策、都市計画が、本格的な人口減少社会に対応するように変革する上では、ドイツやアメリカの先進的で具体的な事例と応用可能性を一定程度明らかにできたことは、政策面・学術面でも貴重な貢献となったと考える。また、日本での日米、日独の交流セミナーの開催によって、社会的関心への対応や若手研究者の参画の機会となった。

研究成果の概要(英文)：“Shrinking cities” has been becoming one of typical urban condition in developed nations after 1990's. There is no single model of the “shrinking city”. The features of urban shrinkage are interwoven with the social, cultural, political and economic conditions of a given country or region or historical stages. The international comparative research study presents the characteristics, problems, policies and planning of shrinking cities through academic exchanging with scholars of German, USA and Japan.

We had researched typical cities and areas, analyzed statistical data, assessed documents and held meetings. We presented academic papers including collective treatises with German and USA scholars. We held the international seminar on shrinking cities- Japan and USA- in Nagoya, 2018 and another international seminar- Japan and Germany- will be held in Kyoto and Nagoya, 2019.

研究分野：都市計画

キーワード：シュリンクシティ 国際比較 人口減少 縮小都市 アメリカ ドイツ 空き家バンク

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

都市の成長拡大に伴う諸問題の解決手法であった都市計画は、21世紀には人口減少に対処することが求められている。人口減少を要因とする都市空間の縮小は、先進国共通の現象であるが、特にイギリス旧工業都市群、アメリカ合衆国北東部工業都市群、旧東ドイツの都市群、そして日本である。全国的には人口増加傾向のアメリカでも、アメリカ特有の人種や社会階層による住み分け、住宅の郊外化による都市のスプロール現象と都心部の衰退が重なって、中心都市の人口減少、都市縮小=アーバンシュリンケージが見られるようになっている。対応面では、市民参画やNPOなど多様なガバナンス、社会システムも特徴となっている。旧東ドイツ地域は1989年の東西統合により、それ以前からの人口減少傾向に拍車がかかった。ドイツ政府は東ドイツの再建を国家戦略とし、「都市改造-東、シュタットウンパウ-オスト」プログラムを開始した。郊外住宅団地の集合住宅では大規模な縮造が進められ、連動して都心部再生も進めている。

都市人口の減少による空間的現れ(放棄空き家・建物や空き地の増大、人口構造変化、逆都市化、近隣の衰退)と対応は、先進国で共通の現象が見られる一方で、地域の空間構成、社会経済構造、都市計画制度などによって様々である。

### 2. 研究の目的

日欧米におけるシュリンキングシティに関する議論の比較をすることにより、各国の議論のアーバンシュリンケージ及び対応策への影響を明らかにする。

日欧米のシュリンキングシティにおける統計データの比較により、日欧米におけるシュリンキングシティの現況、シュリンケージプロセス・地域空間構造の違いを明らかにする。

日欧米における都市計画文書の比較と訪問調査により、アーバンシュリンケージを前提とした都市計画の方向性及び方策を検討する。

人口減少の直接的な現れである空き家・空き地問題及びその対応策を明らかにすること。欧米における空き家・空き地対策の日本への適応可能性を検討する。

以上より、アーバンシュリンケージの要因、進行プロセス、対応策について、多面的な比較検討を行い、わが国におけるシュリンキングシティの理解と対応策の方向性を示す。

### 3. 研究の方法

本研究の推進のために国内で代表者、分担者、協力者による研究会を適宜開催するとともに、海外協力者と海外で研究集会を開催した。日本のシュリンキングシティの実態と予測は、都市圏を意識した統計解析、計画文書の収集解析と現地調査などで明らかにした。都市空間の縮小=アーバンシュリンケージの実態は、主として空き家・空き地の発現状況の解析で把握した。人口減少を前提とした都市計画を推進している典型的な自治体を抽出し、対応方策を考察した。

本研究の枠組みの構築：国内で毎年度数回の研究会を開催し、ドイツ等でシュリンキングシティに関連した研究を進めている研究者と交流し、現地調査も実施した。

アーバンシュリンケージに関する日欧米の研究動向と議論の比較考察：文献解析やドイツにおける研究会の開催、研究機関や国際機関、政府機関などへ訪問調査した。

シュリンキングシティの都市圏単位の空間構造変化の日欧米比較：東京圏における地区単位の統計解析により持続可能性を考察した。中部圏を対象に市町村単位の長期的人口構造変化を解析した。

空き家・空き地の実態と対応方策・ローカルガバナンスの比較考察：能登地域、可児市などで空き地調査、住民アンケート調査、関西圏における空き地分布をGISデータに

よる解析、防災建築街区の実態調査、横須賀市での空き実態調査を実施した。  
アーバンシュリンケージへの対応策の比較考察：計画資料解析や訪問調査を行った。  
2016年、2017年にドイツ・ライプツヒでドイツやアメリカの研究者が参加した研究会を開催した。2015、16年度にアメリカのランドバンクなどの現地調査を行った。  
まとめ - わが国のシュリンキングシティの対応策の方向性に関する提言の作成：日米、日独（2019年度予定）の国際セミナーを開催し、若手研究者の参加も進めた。

#### 4．研究成果

先進国では人口減少とそれに伴う都市機能や空間縮小が顕著な都市＝シュリンキングシティが1990年代以降、見られるようになってきた。シュリンキングシティは、国や地域また時代によって、社会経済的、文化的、さらに都市形態やその変化、政策的対応も多様である。本調査研究は、アメリカ、ドイツ、日本の研究者と交流しながら、シュリンキングシティの特性と課題、政策的計画的対応を国際比較によって明らかにした。国内外の典型都市の調査、統計解析、文献解読、研究会の開催などを行い、海外研究者との共同論文などの研究成果を発表した。代表者、分担者はそれぞれのテーマにしたがって、調査研究活動を進め学会等で研究発表を行った。

シュリンキングシティのディスコース分析を、日米独の研究者による比較分析成果をヨーロッパの専門誌に共同論文として発表することができた。2018年6月には横浜市で開催された世界都市計画史学会において、科研費の代表者・分担者によって、シュリンキングシティのディスコースに関するラウンドテーブルを主催した。国際研究交流セミナーとして、2018年10月に、マリカから2名の研究者を招聘し、シュリンキングシティ・日米研究交流セミナー・名古屋を開催した。2019年10月には、学術振興会助成事業・二国間交流事業セミナーとして、ドイツから約10名の研究者が来日し、京都と名古屋で開催する。この日米及び日独の交流セミナーは科研費による研究交流活動の重要な成果となっている。

本研究は米独の研究者と共同で国際比較調査を行い、シュリンキングシティという課題の共通性と独自性への理解が深まった。また、国際的にはあまり取り上げられなかった日本のシュリンキングシティの状況を海外に知らせ、今後の共同研究の発展への端緒ともなったと考える。成長拡大に対応してきた日本の都市政策、都市計画が、本格的な人口減少社会に対応するように変革する上では、ドイツやアメリカの先進的で具体的な事例と応用可能性を一定程度明らかにできたことは、政策面・学術面でも貴重な貢献となったと考える。また、日本での日米、日独の交流セミナーの開催によって、社会的関心への対応や若手研究者の参画の機会となった。

#### 5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計28件)

1. 柳沢 究・海道清信・脇坂圭一・米澤貴紀・角 哲・高井宏之、中部地方における防災建築街区の実態把握と評価および現況の課題 近現代の建築資源を活かしたまちなか居住の実現に向けて、住総研・研究論文集・実践研究報告集 No.45、2019、pp.129-140、査読有
2. Meng YE and Tomohiko YOSHIDA、A Study on the Locational Distribution of Allotment Gardens and Its Impact Factors in Osaka Prefecture、Journal of Policy Science 『政策科学』Vol.25-2、2018、pp.103-125、査読有
3. 海道清信、犬山のまちづくり - 城下町地区を中心に、建築とまちづくり 2018年10月号、

- 2018、pp.12-15、査読無
4. 木村希・松行美帆子・中村文彦・三浦詩乃・有吉亮、中心市街地における公共空間の周辺エリアのイメージと回遊行動への影響に関する研究、都市計画論文集 Vol.53No.3、2018、pp.341-348、査読有
  5. 海道清信、コンパクトシティの理念と政策を考える、住民と自治 2017 年 4 月号 2017、pp.6-10、査読無
  6. 服部圭郎、人口縮小「先進国」旧東ドイツにみる対応策、公民連携白書 2016-2017、2017、pp.3-10、査読無
  7. 服部圭郎、ホイヤスヴェルダ市(ドイツ)の集合住宅の撤去政策の都市計画的プロセスの考察、日本建築学会計画系論文集第 82 巻第 742 号、2017、pp.3139-3145、査読有
  8. Keiro Hattori、Kiyonobu Kaido、Mihoko Matsuyuki、The development of urban shrinkage discourse and policy response in Japan、Cities69、2017、pp.124-134、査読有
  9. 服部圭郎、グリユナウ団地における団地棟の撤去計画と撤去事業との整合性に関する調査 - 旧東ドイツのライプツィヒのブラッテンパウ団地を事例として、都市計画論文集 Vol 52-3、2017、pp.536-543、査読有
  10. 服部圭郎、ドイツの「シュタットウンバウ・オスト・プログラム」が浮き彫りにした縮小都市政策の課題と特徴、日本不動産学会誌第 31 巻第 2 号、2017、pp.66-71、査読無
  11. 中村智幸・松行美帆子、世代交代の進展する地区の立地・空間的特性に関する研究、都市計画論文集 Vol.52No.3、2017、pp.301-308、査読有
  12. 木村希・松行美帆子・中村文彦・三浦詩乃、中心市街地における広場の特性と利用・運営実態に関する研究、第 56 回土木計画学研究発表会・講演集、2017、CDROM、査読無
  13. Tomohiko YOSHIDA、Patterns and Concepts of Suburban Development in Metropolitan Areas of Japan、city@region :Maturity and Regeneration of Residential Areas in Metropolitan Regions - Trends, Interpretations and Strategies in Japan and Germany - vol. 2、2017、pp.1-13、査読無
  14. Fujii, Yasuyuki、Putting the pieces together: How collaboration between land banks and community land trusts can promote affordable housing in distressed neighborhoods、Cities、published online56、24 February 2016、pp.1-8、査読有
  15. 海道清信、シュリンキングシティの日米欧比較研究 - 2015 年アメリカ調査を中心に、名城大学総合研究所紀要 No.21、2016、pp.225-228、査読無
  16. 服部圭郎、ツォーバーベルグ団地(デッサウ)の撤去事業に関する研究、明治学院大学産業経済研究所年報(明治学院大学)33号、2016、pp.17-32、査読無
  17. 服部圭郎、ホイヤスヴェルダの縮小政策に関する研究(おもに撤去政策を中心として)、経済研究第 152 号、2016、pp.1-31、査読無
  18. 松田真依・松行美帆子、東日本大震災被災地における恒久住宅への移行期における高齢者の買い物行動の実態とその支援に関する研究、都市計画論文集 Vol.51No.3、2016、pp.387-394、査読有
  19. 中村智幸・松行美帆子、世代交代の進展へ影響を及ぼす地区の立地・空間的特性に関する研究、第 54 回土木計画学研究発表会・講演集、2016、CDROM、査読無
  20. 吉田友彦、近畿圏における賃貸用空き家の立地と政策の方向性、2016年度日本建築学会大会建築社会システム部門研究協議会資料集「民間空き家等の住宅市場を活用した居住政策を考える」、2016、pp.53-56、査読無
  21. 吉田友彦、関西圏における未成住宅地の立地分析、日本建築学会大会学術講演梗概集、2016、pp.217-218、査読無

22. 藤井康幸、米国における滞納物件、空き家等の差押後の所有、納税状況の変化とランドバンクの役割：クリーブランド市におけるケーススタディ、都市計画論文集 Vol. 51 No. 3、2016、pp.798-803、査読有
23. 藤井康幸：米国デトロイト市におけるランドバンクによる地区を選別した空き家・空き地問題への対処、都市計画論文集 50(3)巻、2015、pp.1032-8、日本都市計画学会、査読有
24. Fujii, Yasuyuki、Spotlight on the main actors: How land banks and CDCs stabilize and revitalize Cleveland neighborhoods in the aftermath of the foreclosure crisis. Housing Policy Debate, published online 26(2)、October 2015、pp.296-315、査読有
25. 服部圭郎、縮小時代における都市と地域の未来展望、思想 no.1097、岩波書店、2015、pp.102-123、査読無
26. 服部圭郎、旧東ドイツの縮小都市における、集合住宅の撤去政策の都市計画的プロセスの整理および課題・成果の考察、都市計画論文集 50(3)巻、2015、pp.816-823、査読有
27. 海道清信、中部圏の長期人口動態と将来予測：1960～2040年、都市計画学会中部支部創設25周年記念誌・集約型都市構造への転換とそのプロセス・プランニングの構築に向けて、2015、pp.1-4、査読無
28. 海道清信、空き家・空き地の適正管理と利用・活用を都市計画の課題として考える、都市計画学会中部支部創設25周年記念誌・集約型都市構造への転換とそのプロセス・プランニングの構築に向けて、2015、pp.121-124、査読無

〔学会発表〕(計 15件)

1. Tomohiko Yoshida、Possibilities of Smart Community from the Context of Shrinking Cities、Smart and Shrinking Cities: International Perspective -An International Conference on Critical Urban Issues-、2019年2月23日、Ritsumeikan University
2. 木村希・松行美帆子・中村文彦・三浦詩乃・有吉亮、中心市街地における公共空間の周辺エリアのイメージと回遊行動への影響に関する研究、日本都市計画学会大会、2018年11月16日-18日、大阪大学
3. Tomohiko Yoshida、Data Availability as a Challenge for Analyzing Suburban Interrelations in Metropolitan Context、Growing Bad? The Sub-Urban Housing Challenge. International Scientific Symposium on Built Environment and Urban Design with Workshops on Housing for Planners and Researchers、2018年9月6日、Research Institute for Regional and Urban Development in Aachen, Germany
4. Hattori K., Kaido K. Yoshida T., Matsuyuki M.、Shrinking Planning in the Historical Planning Context、Round Table 69, 18th International Planning History Society Conference、2018年7月18日、横浜情報文化センター
5. 中村智幸・松行美帆子、世代交代の進展する地区の立地・空間的特性に関する研究、日本都市計画学会大会、2017年11月11-12日、北海道大学
6. 服部圭郎、グリユナウ団地における団地棟の撤去計画と撤去事業との整合性に関する調査 - 旧東ドイツのライプツィヒのプラッテンパウ団地を事例として、日本都市計画学会、2017年11月11-12日、北海道大学
7. 木村希・松行美帆子・中村文彦・三浦詩乃、中心市街地における広場の特性と利用・運営実態に関する研究、第56回土木計画学研究発表会、2017年11月3-5日、岩手大学
8. 菅沼昂志・柳沢究・海道清信、下本町防災ビルの建築的特徴 犬山下本町における防災建築街区の特徴と再生に、日本建築学会大会、2017年9月1-3日、広島工業大学
9. Tomohiko YOSHIDA、Urban Policy for Shrinking Cities in Japan -Through an Analysis of Vacant Dwellings in Kansai Metropolitan Area、International Conference on Sustainability in Architectural Design and Urbanism、2017

年 8 月 9 日、Aston Hotel Semarang, Indonesia

10. Tomohiko Yoshida, The Shrinkage of Local Areas in Japan through an Analysis of Vacant Dwellings, International Conference of Leading Universities in Asian Studies "The Challenges and Prospects for Urban and Regional Studies on Asia, Feb. 24th 2017, OIC, Ritsumeikan University
11. 藤井康幸、米国における滞納物件、空き家等の差押後の所有、納税状況の変化とランドバンクの役割：クリーブランド市におけるケーススタディ、日本都市計画学会大会、2016 年 11 月 12 日、東洋大学
12. 松田真依・松行美帆子、東日本大震災被災地における恒久住宅への移行期における高齢者の買い物行動の実態とその支援に関する研究、日本都市計画学会大会、2016 年 11 月 12 日、東洋大学
13. 中村智幸・松行美帆子、世代交代の進展する地区の立地・空間的特性に関する研究、第 54 回土木計画研究発表会、2016 年 11 月 4-6 日、長崎大学
14. 吉田友彦、関西圏における未成住宅地の立地分析、日本建築学会大会、2016 年 8 月 23-25 日、福岡大学
15. 服部圭郎、旧東ドイツの縮小都市における、集合住宅の撤去政策の都市計画的プロセスの整理、及び課題・成果の考察、日本都市計画学会大会、2015 年 11 月 7 日、宮崎市  
〔図書〕(計 6 件)
  1. 海道清信他著、洋泉社、いま日本で一番元気な街・福岡、2019、112p
  2. 海道清信他著、ループスプロダクション、2020 年・日本の大問題、2018、112 p
  3. 海道清信他著、プロGRESS、コンパクトシティを考える、2018、178p
  4. 海道清信、藤井康幸他著、学芸出版社、都市縮小時代の土地利用計画 - 多様な都市空間創出へ向けた課題と対応策、2017、232p
  5. 服部圭郎著、学芸出版社、ドイツ・縮小時代の都市デザイン、2016、240p
  6. 久保真人編、久保真人・式王美子・吉田友彦等著、朝倉書店、社会・政策の統計の見方と活用、2015、209p

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者

吉田 友彦・YOSHIDA Tomohiko・立命館大学・政策科学部・教授・40283494

服部 圭郎・HATTORI Keiro・龍谷大学・政策学部・教授・90366906

松行 美帆子・MATSUYUKI Mihoko・横浜国立大学大学院・都市イノベーション研究院・准教授・90398909

藤井 康幸・FUJII Yasuyuki・静岡文化芸術大学・文化政策学部・教授・20630536